

「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立梅島第二小学校 学校長 大塚 信明

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
1	継 続	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 音読・マス計算	毎週火・木 始業前15分間 音読のみ 毎週月・水・金 朝の会3分間	【指導者体制】担任 【取組のねらい】 ・詩や古典等をはっきりとした音声で、リズムよく読む力を身に付ける。 ・たし算・ひき算・かけ算を集中して速く正確に解く力を身に付ける。 【使用教材】マス計算プリント 音読シート 等	・児童一人一人の音読の様子の変容を確認する。 ・各学年で設定した目標時間の達成状況を確認する。 ・記録を蓄積し伸びを確認する。	・80%以上の児童が滑舌よく滑らかに音読できる。 ・たし算・ひき算・かけ算のマス計算については、それぞれの目標時間内に達成できる児童を年度末までに80%以上にする。
2	継 続	朝読書 読み聞かせ 読書旬間 おすすめの図書紹介	全児童 国語	毎週水 始業前15分間 6月・10月 各2週間	【指導者体制】担任 【取組のねらい】 ・多くの読み物を読むことを通して、活字に慣れ、語彙を増やす。 ・豊かな心情を養う。 ・始業前に気持ちを落ち着け、学習の構えをつくる。 ・本を紹介することで、表現力を養う。 【使用教材】学級文庫、学校図書館の図書、各自が用意した図書	・年間読書目標を設定し達成率を確認する。 ・学級や学年で発表会を実施する。	・年度末までに80%以上の児童が年間読書目標を達成する。 ・読書旬間に、全学年が紹介文の掲示を行う。
3	継 続	放課後補充教室	全学年 国語・算数 【夏季休業前まで】 区調査目標値 未到達児童 【夏季休業後】 単元テスト等の結果、定着が不十分な児童	週2～3回 放課後30分間	【指導者体制】担任・専科 【取組のねらい】 ・前学年までの学習内容のつまずきについて個別指導を行う。(各学級5名程度) ・現学年の学習内容でつまずきや、習熟が不足している内容についての補充を行う。 【使用教材】ベーシックドリル、次へのステップ区・都・国調査問題、区調査復習問題 等	・つまずきのある内容について確認テストを実施 ・7、9月に4月実施の区調査問題で確認する。 ・2月に現学年の区調査問題で定着度を確認する。	・9月の再調査で全体の通過率を90%以上にする。 ・2月の調査で通過率を75%以上にする。

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
4	継 続	習熟度別指導	全学年 算数	1年 週4時間 2～6年 週5時間	【指導者体制】担任・ 習熟度別指導担当（3～6年） 時間講師（1，2年） 【取組のねらい】 ・児童一人一人の算数の既習内容の定着状況を基にした学級編成で、個に応じた指導を行う。	・単元テストを実施し、定着状況を確認する。 ・ベーシックドリル診断シートを活用し、定着状況を確認する。	・80%の児童が単元テストで80点以上をとる。 ・年度末の診断シートの平均正答率70%以上。
5	継 続	そだち指導	3，4年 国語・算数 区調査正答率 50～70%の児童 現学年のワーク テスト正答率 60～70%の児童	原則3か月以内 週1時間	【指導者体制】そだち指導員 【取組のねらい】 ・目標値に到達していない児童のつまずきについて、短期間に解消する。 ・さかのぼり学習を行うなどして、基礎的・基本的内容の確実な習得を目指す。	・そだち指導委員会において卒業判定を実施する。	・対象児童が全員卒業する。
6	継 続	サマースクール	全学年 算数 7月区調査問題 再調査で目標値 未到達児童 各学年10名程度	夏季休業中の 10日間 各日60分	【指導者体制】担任・専科・管理職 （児童2名に教員1名） 九中ボランティア生徒 【取組のねらい】 ・定着が不十分な前学年までの学習内容について、個別指導を行う。 ・3・4年生については、そだち指導との連携を図りながら指導を進める。 【使用教材】 ベーシックドリル、次へのステップ、 区調査復習問題 等	・確認テストを実施し、定着状況を確認する。	・9月の定着度調査で70%以上の児童が目標値を通過する。
7	改 善	チャレンジタイム （基礎・基本の 定着を図る時間）	全児童 国語・算数	毎週水・金 5校時開始前 15分間	【指導者体制】担任・専科 【取組のねらい】 ・文のつくり（主語・述語・目的語・修飾語等）、文と文の関係（指示語・接続語等）についての基礎を定着させる。 ・視写を行うことにより、美しい表現や論理的な文章を味わうとともに、表現力・読解力を高める。 ・漢字、計算の反復練習、小テストを実施し、確実な習得を図る。 【使用教材】次へのステップ ベーシックドリル プリント教材 等	・確認テストを実施し、定着状況を定期的に確認する。 ・日頃の作文や発表の様子で定着状況を確認する。 ・記録を蓄積し、定着状況を確認する。	・年度末の確認テストで80%以上の児童が正答率80%以上の結果を出す。 ・年度末に短作文調査を行い、80%以上の児童が条件にあった文章を書く。 ・年度末に計算テストを行い、80%以上の児童が正答率80%以上の結果を出す。

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
8	継 続	家庭学習の課題(宿題) ・意味調べ ・新出漢字 ・つまずきが多い内容につ いてのプリント等	・意味調べ …3年以上 ・新出漢字 …全学年 ・つまずきの多 い内容…全学年	土・日曜を除く 毎日	【取組のねらい】 ・自ら国語辞典や・漢字辞典を用いて言葉の 意味を調べる習慣を身に付ける。(1日2～ 3語) ・対義語や同義語、類義語を知り、語彙を増 やす。 ・国語に限らず、他教科等で出てくる言葉、 新聞、図書等、調べる範囲を広げていく。 ・新出漢字は先取り指導を行い、反復学習が できるようにする。 ・学年でつまずきの多い単元・内容について の振り返り学習を継続的に行う。	・意味調べファイル の取組状況を確認 する。 ・対義語や同義語等 について確認テス トを実施する。 ・小テストを実施す る。	・年度末の確認テスト で85%以上の児童 が、正答率85%以上 の結果を出す。
9	継 続	家庭学習 がんばろう週間	全児童	原則毎月第2週	【取組のねらい】 ・家庭と連携して児童に家庭学習習慣を身に 付ける。(目標時間10分×学年 以上) ・家庭学習で取り組む内容を児童自ら考え、 実践する力を養う。 【取組内容】 家庭学習、読書、テレビ・ゲームの時間を カードに記録する。毎日カードを提出し担 任から達成できていない児童への声かけを 行う。	・毎日カードの点検 を行い、学習状況 の確認、児童への 声かけを行う。 ・宿題提出状況を記 録する。	・年度末の調査結果で 85%以上の児童が、 目標時間、宿題提出 を達成する。
10	継 続	音読活動	全児童	通年	【指導者体制】担任・専科教員 等 【取組のねらい】 ・各教科の教科書の音読を各単元で10回以上 行うことで、すらすらと文章を読む力を高 め、文章内容の理解をしやすくする。	・授業中の音読の様 子を一人一人確認 する。 ・音読発表の機会を 設定する。	・年度末には、80%以 上の児童が、教科書 の文章をすらすらと 音読することができる。
11	継 続	九九検定	2・3年児童	中休み・昼休み	【指導者体制】校長・担任 【取組のねらい】 ・九九を「唱える」「書く」検定を実施し、意 欲を高め習熟を図る。	・「唱える」「書く」 の合格基準を設定 し、検定を実施す る。	・年度末には、各学年 95%以上の児童が合 格する。
12	継 続	多層指導モデルMIM	1・2年児童 コミュニケーションの教室利用 児童	通年	【指導者体制】校長・担任・指導員 【取組のねらい】 ・特殊音節の読みに焦点をあて、読みのつま ずきを解消することで、他教科・領域の学 習に円滑に取り組むことができるようにす る。	・毎月のアセスメン トで状況を確認す る。	・80%以上の児童が通 過する。

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
13	継 続	新聞活用	4・5・6年 児童	毎日の朝の会	【指導者体制】担任 【取組のねらい】 ・社会事象や話題に関心を持ち、必要に応じて内容や語句の意味を更に深く調べたりする力を身に付ける。 ・記事を要約する力、自分の考えを論理的に書いたり発表したりするなどの表現力を身に付ける。	・記事を要約する力、自分の考えを論理的に書く力を調査する。	・年度末には、65%以上の児童が、決められた条件で記事を要約し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
14	継 続	標語・俳句づくり	全学年 国語等	年2回以上	【指導者体制】担任 【取組のねらい】 ・語彙やリズムに親しみ、自分の思いや願いを表現する。 【取組内容】 ・食育標語（全学年）・健全育成標語（5年） ・一茶まつり俳句（全学年） ・いじめ防止標語（代表委員会）等	・学年ごとに掲示を行い、児童相互で鑑賞する。	・代表作品については表彰を行い、学級の30～以上の児童が表彰対象となる。
15	継 続	漢字検定 数学検定	全学年 希望児童	年各1回	【取組のねらい】 ・児童自身が合格目標を設定し、家庭学習等で継続的に学習する習慣を身に付ける。 ・自己の定着状況を全国的な検定調査により確認する。	・目標級に合格する。	・受検児童の70%以上が合格する。
16	継 続	足立スタンダード研修 算数科校内研究	全教員 算数	スタンダード研修 年2回以上 校内研究 年6回以上	【取組のねらい】 ・足立スタンダードについての共通理解を図り、統一内容を確認する。 ・算数科における問題解決的な授業実践を公開、協議を行うことで指導力の向上を図る。 ・算数科における学習内容の系統性を明らかにし、指導に生かす。 ・つまずきの多い単元の指導方法について全教員で検討・検証する。	・全教員が事前授業を含め、2回以上授業を公開する。 ・教員アンケートを実施する。	・区調査でつまずきの多い単元の正答率が前年度比20%以上。 ・教員アンケート4段階B以上が80%以上。
17	継 続	小中連携	全教員・児童	年7回以上	【取組のねらい】 ・「 」を研究主題とし、授業研修を通して授業改善を図る。 ・児童、生徒の交流を通して、児童が将来の希望をもつ。	・教員アンケートを実施する。 ・授業観察で研修成果を確認する。 ・夢デザインシートの内容を確認する。	・教員アンケート4段階B以上が85%以上。 ・研修内容が日常の指導に生かされている。 ・中学校進学に向けて高 学年児童の85%以上が目標や夢をもつ。

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標（＝数値） <いつまで・何を・どの程度>
18	継 続	幼保小連携	全教員・児童	年8回以上	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児プログラム、スタートカリキュラムの内容を相互に理解し、円滑な接続を目指した指導実践を行う。 ・保育参観、交流研修を通して園児の実態や園の取組を理解し、学習・生活規律の確立に生かす。 ・児童、園児に関する情報交換を行い、円滑な接続や入学後の指導に生かす。 ・児童と園児の交流を通して思いやりの気持ちや自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケートを実施する。 ・交流研修等の報告書を確認する。 ・交流後の児童の振り返り確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員アンケート4段階B以上85%以上。
19	継 続	校内若手教員研修	1～4年次教諭	校内研修 毎月1回以上	【取組のねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・4年次までに身に付けたい力を明らかにし、全教員が関わりながら計画的に若手教員を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修計画に基づいた資料等の蓄積状況を確認する。 ・週案簿への記録内容を確認する。 ・授業観察シート、指導員との面接により確認を行う。 ・自己申告面接等で取組状況を確認する。 ・教員アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象教員が授業力に関する自己評価4段階B以上。 ・管理職の評価4段階B以上。 ・教員アンケート4段階B以上が80%以上。
20							